

[成果情報名] 紀伊水道外域における近年のゴマサバ漁獲の増加と漁場水温との関係

[要約] 近年、紀伊水道外域において漁獲量の増加が認められるゴマサバについて、漁獲量変動と漁場水温との関係を調べた。その結果、年間の漁獲量と同年の4～9月の平均水温との間に正の相関が認められた。紀伊水道外域の4～9月の水温は近年上昇傾向にあり、このことがゴマサバの来遊あるいは漁場形成にとって好適であったものと推察された。

[キーワード] サバ類、ゴマサバ、水温、資源、来遊、漁場形成

[担当機関名] 水産試験場・沿岸沖合資源部 [連絡先] 0735-62-0940

[部 会 名] 水産 [分 類] 研究

[背景・ねらい]

サバ類は、和歌山県の沿岸漁業にとって重要な漁獲対象資源の一つである。サバ類にはマサバとゴマサバが含まれるが、近年マサバの漁獲量の減少とは逆に、ゴマサバの漁獲量の増加が認められる。ゴマサバはマサバに比べて南方性の生態的特性をもつと考えられており、近年の漁場水温の上昇が漁獲量の増加の一因になっているものと推測される。そこで、和歌山県においてサバ類の漁獲が最も多い中型2そうまき網のゴマサバ漁獲量と、漁場となる紀伊水道外域の水温との関係を調べ、漁獲量の増加の要因について検討した。

[成果の内容・特徴]

1. ゴマサバの漁獲量は1990年代後半より増加し始め、2003年と2004年はマサバを上回った(図1)。
2. ゴマサバの漁獲量と漁場水温(切目沖3定点、水深100m層の水温の平均)との関係を調べた結果、年間漁獲量と同年の春～夏期の水温との間に正の相関が見られ、特に4～9月の平均水温との間に最も高い相関が認められた(図2)。また、4～9月の平均水温は近年上昇傾向にあることが認められた(図3)。
3. ゴマサバの月別漁獲量の1993年以降の推移を見ると、年間の漁獲量が増加し始めた1990年代後半以降は、特に4～9月にあたる春～夏期の漁獲量が増加していることが認められた(図4)。
4. 独立行政法人水産総合研究センターの資源評価によると、近年のゴマサバ太平洋系群の資源量には大きな変動は認められない。したがって、紀伊水道外域におけるゴマサバ漁獲の近年の増加は、4～9月の水温の上昇により来遊あるいは漁場形成条件が好転したことが要因の一つと推察された。

[成果の活用面・留意点]

漁獲量変動の要因を解明することは、漁況予測につながる。今後は水温以外の要因を探るとともに、水温自体の変動をもたらす要因についても解明する必要がある。また、紀伊水道外域のゴマサバ漁獲は増加しているが、安価な若年魚の大量漁獲は資源の減少を招く危険があり注意が必要である。

[具体的データ]

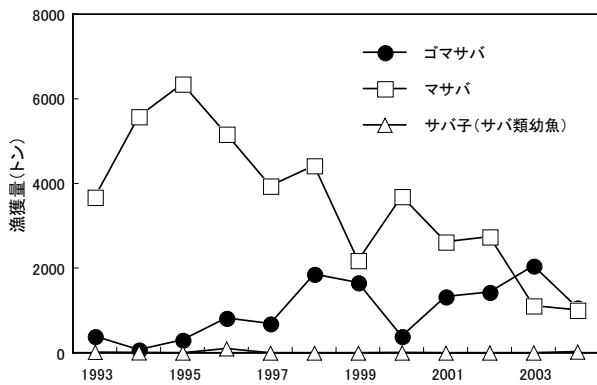


図1 紀伊水道外域2そうまき網によるサバ類
銘柄別漁獲量の推移

注) サバ類の銘柄別(種別)漁獲量データは1993
年以降に田辺漁協のみ算出しているため、田辺漁協
水揚げ分の銘柄別比率に、2そうまき網のサバ類全
漁獲量(比井崎漁協・御坊市漁協・田辺漁協の合計)
を乗じて2そうまき網全体の銘柄別漁獲量を算出し
ている

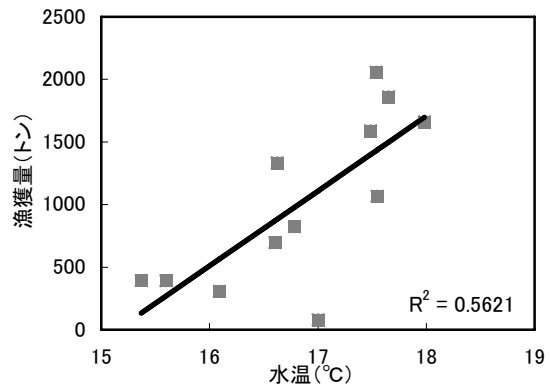


図2 2そうまき網によるゴマサバ漁獲
量と紀伊水道外域の4~9月の平均水温
(切目沖3定点、水深100m層の平均)
との関係

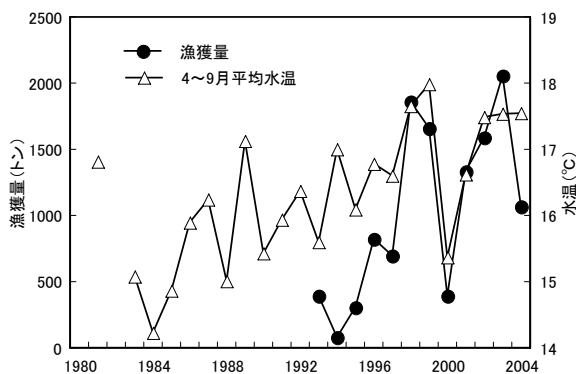


図3 紀伊水道外域の4~9月の平均水温(切
目沖3定点、水深100m層の平均)と2そう
まき網ゴマサバ漁獲量の推移

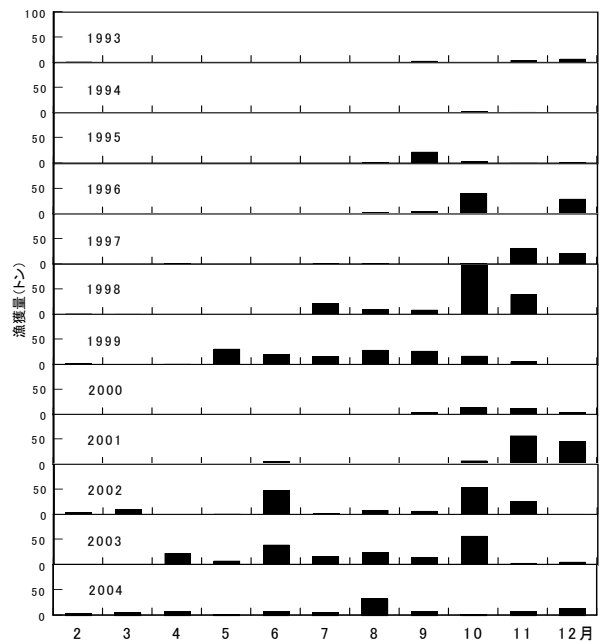


図4 田辺漁協2そうまき網によるゴマサバ月
別漁獲量の推移(1統あたり平均)

[その他]

研究課題名：漁業資源・漁場調査と情報提供事業

予算区分：委託

研究期間：昭和55年～平成17年度

研究担当者：土居内 龍

発表論文等：なし